

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 18 日現在

機関番号：34312

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500743

研究課題名（和文）生活管理の視点からみた収納様式に関する研究

研究課題名（英文）Research on Storage Styles from the Perspective of Lifestyle Management

研究代表者

中村 久美（NAKAMURA KUMI）

京都ノートルダム女子大学・生活福祉文化学部・教授

研究者番号：80240860

研究成果の概要（和文）：戸建住宅および公団分譲集合住宅を対象に住み方調査を行った。その結果、選択的に保有、出納される生活用品の保有率の高さや、収納や出納状況に対して不都合を抱える世帯の多さ、中でも死蔵品の問題を明らかにする一方、戸建住宅における納戸保有率の高さと、それらが4畳未満の小室中心でほとんどが寝室近くや屋根裏などの寝室圏に設置されていることを明らかにした。以上より、持ち物の見直しなど、生活管理行為と集中収納空間の使いこなしによる収納様式の構築の必要性を指摘した。さらに集合住宅では、集住のメリットを活かしたモノの管理に関わる共用、循環のシステムも含めた収納様式の構築を提唱した。

研究成果の概要（英文）：The ultimate objective of this research is to construct a storage style for modern housing. The first step of this research intends to clarify the problems concerning storage space and lifestyle from the perspective of management of household goods by evaluating how household supplies are consumed and replenished. An investigation was conducted on housing and lifestyles of individual houses with the results being summarized as follows.

1. The ownership ratio of household goods that are purchased and stored selectively was high, and an extensive number of goods are taken in and out of storage both regularly and sporadically throughout the year. On the other hand, several items were kept in storage without being used for a long time. Nando which mean closets were the popular means of storage for any type of goods.
2. Families without a habit of reviewing their possessions or a rule on the management of goods often had a serious problem in tidying up the house, and they earned a low rating in terms of storage.
3. Considering household management behaviors concerning goods and the availability of a closet as the main storage space will be the keys in establishing the storage style.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
21年度	400,000	120,000	520,000
22年度	600,000	180,000	780,000
23年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学 生活科学一般

キーワード：住生活

1. 研究開始当初の背景

高度経済成長期以降の生活運営の方向は、物質的な豊かさにこだわらない真の豊かさ、主体的な生活の質の追求(1991 三東編)から、それらの上にさらに個性的な生活の形成を重要視する(日本家政学会生活経営学部会2000)方向へと進んできた。今やそれぞれが自立のうえに、自己の価値観に基づいて生活設計していくことが重視されてきている(2004 久木元)。当然、生活経営の具体的な営為である生活財の整序もその方向で行われる必要がある。

ただし、一連の生活経営は、地球環境問題という生活の持続性に関わる大きな枠組みのもとで成されなければならない。地球環境問題を考慮しつつ自己のライフスタイルを実現していくうえで、生活管理という考えから合理的なモノの管理のしくみを構築していく必要がある。

2. 研究の目的

地球環境問題という生活の枠組に対する規範意識と、個性ある生活形成を目指す生活価値意識に基づく生活経営における、生活管理の側面としてモノの収納・管理をとらえ、合理的な収納様式の確立と、そのための空間計画のあり方を検討することを本研究の目的とする。

具体的には、保有から使用、収納・保管、処分に至るモノの動きを、対応する空間や時間の使い方、人とその技術、その根底にある居住者の生活意識や生活態度、さらにはモノの保有、管理の枠組みを与える地球環境問題(外的条件)への認識と取り組みの状況を総合的に検証・評価し、普遍的課題の抽出と先進的事例の提示より、規範性と個別の価値を備えた生活管理としての収納様式と対応する空間のあり方を検討する。

3. 研究の方法

収納の問題が単に住宅の狭さに帰着することなく、また収納や管理の仕方に多様性が見込める戸建住宅を調査対象とし(具体的には京都府宇治市に平成元年より分譲された郊外住宅)、質問紙調査を実施した。調査期間は平成21年6月25日～7月7日。有効サンプル数251。

さらに、収納空間の制約が厳しい集合住宅についても、京都市内の公団分譲集合住宅を対象に調査を行った。調査期間は2011年5月30日～6月11日。有効サンプル数163。

4. 研究成果

(1) モノの出納と管理の状況

保有や収納場所が選択的で周期的、計画的、散発的に出納するモノとして、季節用品(冷

暖房器具(表1)、行事品(図1)、しつらえ・室内装備品(表2)、スポーツ・レジャー用品(表3)、日用品ストック(図表略)に注目、出納状況や収納空間をみた。

表1. 冷暖房器具の収納・出納状況

■出納状況	扇風機	ヒーター・ストーブ	こたつ	ホットカーペット
1. 季節の変わり目に毎年出す	91.6	87.9	37.5	69.1
2. 出したり出さなかつたり	5.0	4.0	5.4	6.1
3. しまいつばなし	2.1	5.4	12.5	12.1
4. 1年中出さなかつたり	7.9	8.1	41.1	13.9
その他 ¹⁾	-	-	5.4	-
(n)	(240)	(224)	(168)	(165)
出納率 ²⁾	85.8	83.9	37.5	67.9

¹⁾掘りこたつ [複数回答] n: 非保有, 不明世帯のぞく
²⁾保有台数全部を毎年出している世帯の割合

■季節用品の収納場所(毎年出し入れするモノ)	扇風機	ヒーター・ストーブ	こたつ	ホットカーペット
1. 使用室の押し入れ, 物入れ	14.4	14.8	29.8	22.6
2. 使用室以外の押し入れ, 物入れ	20.1	20.6	19.3	36.8
3. 玄関・廊下物入れ	11.5	13.2	5.3	6.6
4. 家事室・ユティリティ	1.0	0.5	0.0	0.0
5. 納戸	29.2	29.1	29.8	24.5
6. 屋外物置	9.6	11.6	5.3	4.7
7. その他	4.8	4.2	10.5	2.8
8. 複数室	9.7	5.7	0.0	1.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0
(n)	(209)	(189)	(57)	(106)

n: 非保有, 不明世帯のぞく 単位: %

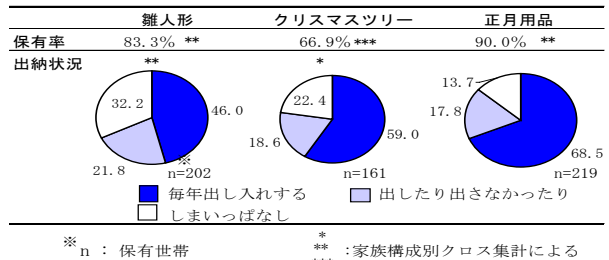


図1. 行事用品の保有と出納状況

表2. しつらえ・装備品の収納・出納状況

	クッション	座布団	敷物	のれん	縁結	掛け軸	花瓶
出し入れ状況	80.5	94.6	84.5	31.1	85.7	71.3	84.8
日常的に出し入れ	11.6	8.3	7.6	5.5	3.9	7.7	39.8
季節により	15.3	17.9	60.9	38.4	16.3	32.7	10.0
正月や節句に併せて	0.0	1.3	1.0	2.7	3.9	6.0	0.9
来客時など特別な時に	2.1	40.6	1.5	0.0	1.0	4.2	11.3
出したまま	68.2	22.3	27.9	50.6	70.9	36.9	28.5
しまいつばなし	10.5	23.6	2.5	9.5	19.9	24.4	20.8
(n) ¹⁾	(189)	(229)	(197)	(73)	(203)	(168)	(231)
収納場所							
居間, 食事室の物入れ	20.5	4.1	4.9	12.5	10.7	6.9	24.4
寝室の物入れ	27.4	20.2	14.7	20.0	17.9	12.1	2.3
客間の押し入れ	24.7	56.5	12.6	20.0	25.0	55.2	16.5
玄関・廊下の物入れ	5.5	6.2	16.1	15.0	10.7	4.3	29.0
納戸	16.4	13.0	42.7	22.5	32.1	17.2	18.8
屋外物置	1.4	0.5	2.1	2.5	1.2	2.6	3.4
その他	4.1	2.1	8.4	7.5	4.8	2.6	6.8
(n) ²⁾	(73)	(193)	(143)	(40)	(84)	(116)	(176)

*1 非保有世帯, 不明世帯のぞく 単位: % [複数回答]
 *2 非保有世帯「置さばなし, 飾りばなし」, および不明世帯のぞく

楽しみの生活の拡充, 生活の豊かさを反映して, 5種類の用具用品は全般に保有率が高い。季節の変わり目を中心に年間を通じかなりのモノが周期的, 散発的に出し入れされている。その一方, 消耗品のストックをのぞいて, 一定期間以上使用されないまま, 収納空間に滞積するモノも少なくない状況が明ら

かになった。どの種のモノの収納にも納戸がよく使われている。

モノの出納状況に対する問題をみると、「特に何も不都合はない」とする世帯は2割にとどまる。不都合の内容は、収納空間の容量の問題というより、収納の仕方や場所の問題、とりわけ死蔵品の問題の指摘が非常に高い(図2)。

先述の5種について収納に困ると回答されたケースを詳しくみると、使用場所や設置場所から遠い納戸に収納されていたり、年間数回以下の使用頻度のものが居室の貴重な収納スペースを占領しているケースであった。

表3. レジャー・スポーツ用品の収納・出納状況

使用頻度	ゴルフバッグ	釣道具	スキー用具	スポーツ	キャンプ用品	ハイキングセット
1. 月に数回以上	53.4	35.9	36.7	81.7	37.1	54.2
2. 月1回程度	28.2	8.0	0.0	3.0	1.1	1.5
3. 年に数回	14.5	6.9	1.1	2.0	3.3	2.2
4. 1年に1回程度	21.4	28.7	34.8	35.6	25.0	43.3
5. 2, 3年に1回程度	3.1	9.2	17.4	21.8	18.5	14.2
6. 使っていない	2.3	8.0	12.0	21.8	12.0	12.7
計	30.5	39.1	34.8	15.8	40.2	26.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
収納場所【複数回答】						
1. 居間, 食事室	3.8	0.0	1.1	2.5	1.1	7.4
2. 寝室	9.8	4.5	7.6	33.0	7.6	3.0
3. 客間	2.3	4.5	2.2	4.9	4.3	0.7
4. 書斎	4.5	4.5	1.1	3.0	1.1	1.5
5. 玄関収納	28.6	9.1	7.6	2.0	6.5	0.7
6. 納戸	18.0	19.3	31.5	48.3	15.2	11.9
7. 屋外物置	15.0	38.6	32.6	7.4	52.2	65.9
8. ガレージ	12.0	13.6	6.5	1.0	13.0	14.8
9. その他	12.8	9.1	8.7	5.4	4.3	2.2
10. レンタルする	0.8	1.1	6.5	2.0	0.0	0.0
(n)	(131)	(87)	(92)	(202)	(92)	(134)

1) 用具の保有の有無に関わらず、当該用具を用いた行為を行なう家族がいる割合
2) 当該用具の使用行為のない世帯および不明世帯のぞく 単位: %

持ち物の見直しを、日常的、あるいは季節の変わり目や大掃除に定期的に行う世帯がある一方、不定期(モノが増えたら)であったり、見直す習慣を持たない世帯が存在する(表4)。若年層は季節ごとに見直すタイプが多いのに対し、中年層では不定期タイプが多い。高齢層は「日常的」が多い一方、「見直さない」タイプも多い。世帯の縮小とともに

表4. 持ち物の見直し機会

1. 日常的にしている	15.1
2. 季節の変わり目にしている	47.4
3. 大掃除の際にしている	12.7
4. モノが増えてきたらしている	53.0
5. その他	2.8
6. 改まって見直すことはない	6.0
不明	1.2

単位: % [複数回答] n=251

表5. 収納に関わる生活規範

1. 保有の仕方	34.7
2. 片付け方	36.7
3. 整理, 分類	27.5
4. 収納スペースの確保	15.5
5. 特に何も無い	38.6
6. 不明	8.8

[複数回答] n=251

に、見直す必要のないほどに持ち物が簡素化される場合がある一方、多くのモノが滞積した状態

をもはやあえて片付けない場合もあるものと考えられる。

心がけや生活習慣、世帯独自のルールなど、モノの収納に関する生活規範を有する世帯は57.6%。自由記述による内容は表5のように整理できる。

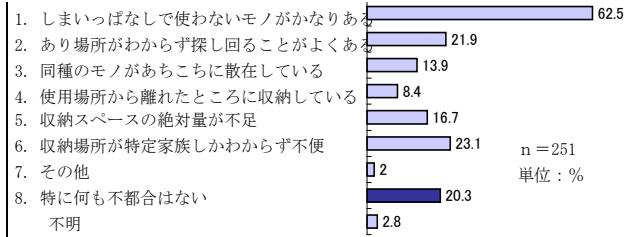


図2. 収納全般の不都合

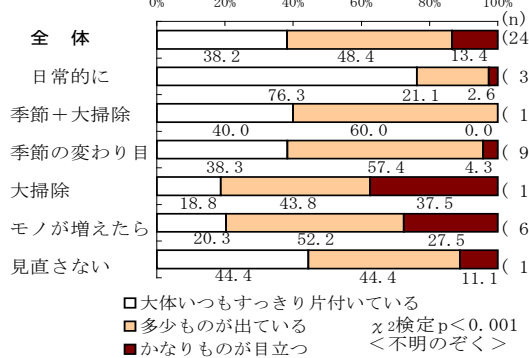


図3. 家の中の様子—見直し機会別

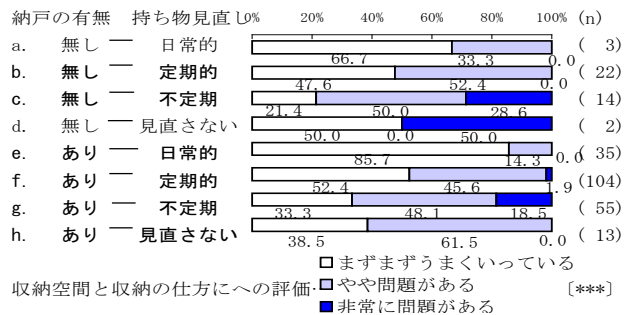


図4. 収納総合評価—収納空間と見直し機会のタイプ別

見直しの如何や生活規範の有無により、住空間の秩序や収納の総合評価は大きく異なる。季節の変わり目に定期的に見直す生活管理の習慣は重要である(図3,4)。

納戸の有無を空間条件の軸に、持ち物の見直しの如何を住み方の軸に据え、両軸より収納の仕方のタイプを分類した。その類型別に収納に対する総合評価をみる(図4)。持ち物を見直し、モノとの関わりを振り返る生活管理的行為と、その管理拠点となりうる集中収納空間としての納戸がそろると、評価が高い。両者がモノ収納、管理にとって望ましい収納様式を構築していくうえでの両輪になると考える。その場合、集中収納空間としての納戸は単に確保されればよいというものではなく、空間条件の如何が大きく関わると考えられる。

(2) 納戸とその使われ方の実態

調査対象世帯における納戸の保有率は83%にもものぼる。入居時に計画されていた納戸が多いものの、25%は居住途中から居室を転用している。設置数は1室が49%と半数をしめるが、複数の納戸をもつ世帯も約25%存在する。

表 6. 納戸の空間状況

面積	%	しつらえ	%
2 畳以上 4 畳未満	47.0	押し入れ+棚+置き家具	1.8
4 畳 // 6 畳 //	24.3	押し入れ+置き家具	7.1
6 畳 // 8 畳 //	24.3	押し入れ+棚	5.4
8 畳以上	4.4	棚 + 置き家具	11.6
計	100.0	押し入れ	9.8
位置	%	棚	21.4
玄関近く	5.2	置き家具	33.0
寝室近く	73.9	何も無し	9.8
台所近く	2.6	計	100.0
屋根裏	14.8	<納戸一室を保有する世帯のうち不明のぞく n=115>	
屋外	3.5		
計	100.0		

表 7. 納戸の使い方

使い方	%	χ ² 検定 納戸の位置
1. 季節外のもの	56.9	
2. たまに使うもの	39.8	
3. 日常使用品	14.6	[*]
4. 食品、日用品のストック	10.6	[*]
5. 贈答品などの一時収納	18.7	
6. 引取品や資源ごみの一時置き場	3.3	
7. 更衣室としても使う衣裳部屋	30.1	[*]
8. 不用品置き場	32.5	[*]
9. その他	5.7	
不明	6.5	
計	100.0	

n=115 <不明のぞく> [複数回答]

調査対象世帯の納戸は3畳前後の小間が中心。寝室近くに設置されることが多い。屋根裏も15%存在する。居住途中からの居室の転用では6畳以上が中心となるが、入居時に計画されていた納戸はほとんどが6畳未満。押し入れ、置き家具の使用等しつらえは多様。4畳未満では置き家具で対応が主流である。

納戸1室の場合、その使われ方をみると、「1. 季節外のもの」「2. たまに使うもの」など、保管期間の長いモノの収納によく使われているが、「3. 日常使用品」や「4. 日用品のストック」にも10~15%と一定の利用がある(表7)。「7. 衣裳部屋」や「8. 不用品置き場」としての使い方もそれぞれ30%程度存在する。具体的な収納品目をみると、保管期間の長いもの、かさばるもの、増えていくものを中心に多様なものがあげられている。使い方に対する複数回答を、回答パターンとしてとらえ、納戸の使い方の類型化を試みた(表8)。保管機能中心の納戸が多いが(「4. 非日常品」など)、日用品をまとめた出入りの頻繁なアクティブな納戸や性格の異なる多様なものをまとめた納戸も存在する。面積別に見ると保管に重きを置く非日常品用の納戸

表 8. 納戸の使い方パターン

b. 使い方パターン	%	(n)
1. 非日常品 - 非日常品	31.0	(18)
2. 非日常品 - 衣類	19.0	(11)
3. 非日常品 - 非日常品・日用品	1.7	(1)
4. 非日常品 - 非日常品・衣類	15.5	(9)
5. 非日常品 - 日用品	22.4	(13)
6. 衣類 - 非日常品・衣類	5.2	(3)
7. 衣類 - 非日常品・日用品	1.7	(1)
8. 日用品 - 衣類	1.7	(1)
9. 日用品 - 非日常品・日用品	1.7	(1)
計	100.0	(58)

注) 「非日常品-非日常品・日用品」:

非日常品を収納する納戸と非日常品と日用品を収納する納戸の組み合わせを表す

表 9. 納戸2室の空間状況

面積の組み合わせ		
1. 4 畳未満 + 4 畳未満	20.0	(12)
2. 4 畳未満 + 4~6 畳未満	18.3	(11)
3. 4 畳未満 + 6 畳以上	31.6	(19)
4. 4~6 畳未満 + 4~6 畳未満	5.0	(3)
5. 4~6 畳未満 + 6 畳以上	10.0	(6)
6. 6 畳以上 + 6 畳以上	15.1	(9)
計	100.0	(60)
住宅における位置の組み合わせ		
1. 玄関近く + 玄関近く	1.9	(1)
2. 玄関 // + 寝室 //	19.2	(10)
3. 玄関 // + 屋根裏	1.9	(1)
4. 寝室 // + 寝室 //	28.8	(15)
5. 寝室 // + 台所 //	7.7	(4)
6. 寝室 // + 屋根裏	36.5	(19)
7. 寝室 // + 屋外物置	1.9	(1)
8. 屋根裏 + 屋外物置	1.9	(1)
計	100.0	(60)

表 10. 納戸2室の使い方

b. 使い方パターン	%	(n)
1. 非日常品 - 非日常品	31.0	(18)
2. 非日常品 - 衣類	19.0	(11)
3. 非日常品 - 非日常品・日用品	1.7	(1)
4. 非日常品 - 非日常品・衣類	15.5	(9)
5. 非日常品 - 日用品	22.4	(13)
6. 衣類 - 非日常品・衣類	5.2	(3)
7. 衣類 - 非日常品・日用品	1.7	(1)
8. 日用品 - 衣類	1.7	(1)
9. 日用品 - 非日常品・日用品	1.7	(1)
計	100.0	(58)

注) 「非日常品-非日常品・日用品」:

非日常品を収納する納戸と非日常品と日用品を収納する納戸の組み合わせを表す

やそれを中心に多様なものをまとめた複合使用の納戸は4畳以上が多いのに対し、日用品をまとめた納戸では6畳以上はみあたらない。

納戸2室の場合の空間状況、および使われ方の状況は表9、表10に示す通りである。

(3) 集合住宅の居住特性に対応した収納様式の課題

ここからは公団分譲集合住宅を対象にした調査結果について述べる。

集合住宅では調査対象住宅のうち納戸を保有する世帯は全体の1/3で、その大部分は居室転用の納戸であった。納戸の使い方をみると、「季節外のもの」や「たまに使うもの」が多いのは戸建住宅と同様の傾向であるが、「日常使用品」「食品・日用品ストック」「資源ごみの一時置き場」などの収納に使われ、戸建住宅に比べ、日常的な出し入れを前提として使われる傾向が強い。使われ方のパターンとして見た場合、多様なモノをまとめ、複合的な使い方をしている世帯が多い。戸建住宅以上に、納戸内のモノの整理、住み分けが必要である。

持ち物の見直し機会から類型化した各世帯の見直しパターンの比率は戸建住宅とほぼ同様の傾向を示し、「日常的」が2割弱、「定期的」は4.5割強、「不定期」が2.5割、「見直さない」1割弱である。

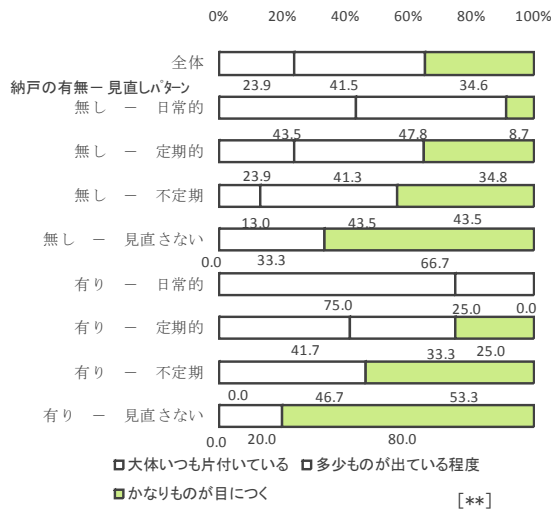


図5.家の中の空間秩序－見直し機会別

納戸の有無と持ち物の見直しの如何を両軸にして、収納の仕方のタイプを分類、その類型別に住宅内の空間秩序の評価(図5)、および収納に対する総合評価をみた。納戸を保有し、定期的な見直しをしている世帯の空間秩序や収納に対する総合評価は高く、集中収納空間と生活管理による収納様式の構築は集合住宅においても求められる。

ただし間取りの制約がある集合住宅の問題として、収納空間の絶対量の不足、衣類や書籍など住宅内に増えていくものの処遇の問題が指摘され、実際に「実家」など住宅外に収納空間が拡散している実態が判明した(図6)。それら実家に収納されているモノのうち一定の比率をしめる本や衣類は、収納に困るものの筆頭にあげられている(表11)。これらは住宅内に継続的に流入し、滞積して

自宅以外の収納空間	集合住宅 35.6 (58)	戸建住宅 10.4 (25)
内訳	あり	
トランクルーム・貸倉庫	1.2 (2)	0.8 (2)
クリーニングなどの預かりサービス	1.8 (3)	0.8 (2)
実家	22.7 (37)	7.2 (18)
その他	9.9 (16) ^{※1}	1.2 (3)
収納品	n=58	n=25
衣類	41.4 (24)	26.9 (7)
寝具	10.3 (6)	15.4 (4)
本	46.6 (27)	38.5 (10)
行事用品	8.6 (5)	30.8 (8)
家具	25.9 (15)	7.7 (2)
育児用品	10.3 (6)	19.2 (5)
その他	22.4 (13) ^{※2}	19.2 (5)
【複数回答】 <不明のぞく>		
※1 仕事場 (6) 知人宅 (4) 親戚宅 (4) 車の中 (2)		
※2 季節用品 (4) 油絵、手芸、茶道等趣味用品 (5)		
不明 (2)		

図6.自宅以外の収納空間について

表11. 収納に困るもの

	集合住宅	戸建住宅	
1. 衣類	64.4	42.2	[**]
2. 本	50.9	28.7	[**]
3. 寝具	27.6	28.3	
4. 行事用品	6.7	7.6	
5. 食品ストック	9.8	4.0	[*]
6. 日用品ストック	8.0	2.4	[*]
7. スポーツ用品	4.3	5.2	
8. アウトドア用品	5.5	4.8	
9. CD・DVD	18.4	10.8	[*]
10. 調度・しつらえ用品	4.9	3.6	
11. 季節用品	1.8	2.0	
12. ビン・缶(資源ごみ)	9.2	3.6	[*]
13. 再利用品や処分保留のもの	16.6	12.4	
14. その他	9.2	16.7	
特になし	13.5	11.2	
(n)	(163)	(244)	

いくものである。本と衣類の住宅における保有量の調整に寄与する行為を、「保有」と「処分」の場面に分けてまとめている(表12,13)。

住宅内に滞積していくものを適切に処分すると同時に社会的に有効利用する、いわゆるモノの循環や共用など、モノの管理を戸別の負担や収納スペースのやりくりの問題に閉じ込めず、もう少しオープンな制度やシステムで対応できれば合理的である。すでに民間マンションなどで採用されている「1. 共用空間にトランクルームを設置」「3. たまに使うもののレンタルサービス」「4. 読み終わった本を持ち寄って運営する図書室」は、3~4割の世帯があってもよいと考えている(表14)。特に若年層に、ものの有効利用

表12. 衣類の保有への対応

場面	対応手段	衣類	習慣的にある	経験がある	したいが実行したことはない	しない考えたことはない	計
保有	前制	着回しの工夫で対応	46.6	36.8	3.1	13.5	100.0
	ラベント・ワタク	人に借りる	1.2	17.2	6.7	74.8	100.0
	社会サービス	お店でレンタルする	0.0	22.1	4.9	73.0	100.0
処分	ラベント・ワタク	人にあげる	0.6	17.8	6.7	74.8	100.0
	(R-館・ワタク)	ラゲージセルに出す	0.6	3.7	31.3	64.4	100.0
	社会サービス	ラゲージセルに出す	4.9	28.8	28.8	37.4	100.0
	社会サービス	古着屋に持って行く	1.8	14.7	34.4	49.1	100.0

表13. 本の保有への対応

場面	対応手段	習慣的にある	経験がある	したいが実行したことはない	しない考えたことはない	計	
保有	前制	購入を見合す	20.2	25.8	12.3	41.7	100.0
		定期購読はひかえる	26.4	23.9	3.7	46.0	100.0
	ラベント・ワタク	人に借りる	5.5	34.4	3.7	56.4	100.0
処分	社会サービス	図書館で借りる	30.0	36.3	11.0	22.7	100.0
	ラベント・ワタク	人にあげる	7.3	51.6	11.7	29.4	100.0
	(R-館・ワタク)	ラゲージセルに出す	0.6	2.5	32.5	64.4	100.0
	社会サービス	図書館に寄贈する	1.2	9.2	39.3	50.3	100.0
社会サービス	古本屋に持って行く	14.1	46.6	17.8	21.5	100.0	

表14. モノの共用・循環システムへの希望

1. 共用スペースに希望者が使用する個別のトランクルームを設置	41.1
2. レジャー用品などたまに使うもののレンタルサービス	9.8
3. 使わなくなったものをお互いに交換、授受するシステム	38.0
4. 読み終わった本を持ち寄って運営する図書室	30.7
5. その他	1.2
特に何もいらない	23.3
(n)	(153)
単位: % n=161 <不明のぞく>	

や循環に対する意識が高く、30歳代以下ではこの両システムを半数以上が支持している。

集合住宅における収納様式は、戸建住宅と同様、生活管理と集中収納空間の使いこなしを基本としながらも、間取りの制約による収納空間の絶対量不足への対応と、モノの保有と利用の合理性を考え、集住の利点を活かしたモノの貸借、循環のシステム化や共用空間でのトランクルームの運営など、住戸外の取り組みも含めた収納様式の構築という考え方ができるのではないかと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

①中村久美, 生活管理の視点からみた収納様式に関する研究—モノの出納と管理の状況, 日本家政学会誌, 査読有, Vol.62, No.5, 277-288

②中村久美, 今井範子, 牧野唯, 集中収納空間としての納戸の使用様態とその評価—生活管理の視点からみた収納様式に関する研究, 日本家政学会誌, 査読有, Vol.62, No.11, 709-720

[学会発表] (計5件)

①中村久美, 今井範子, 牧野唯, 生活管理の視点からみた収納様式に関する研究—モノの出納と管理の状況, 日本家政学会第62回大会 (2010)

②中村久美, 生活管理の視点からみた収納様式に関する研究—モノの出納と管理の状況—, 日本建築学会2010年度大会 (北陸)

③中村久美, 今井範子, 牧野唯, 納戸とその使われ方の実態—生活管理の視点からみた収納様式に関する研究その2, 日本家政学会第63回大会。

④中村久美, 今井範子, 牧野唯, 納戸とその使われ方の実態—生活管理の視点からみた収納様式に関する研究, 日本建築学会大会2011年度大会 (関東)

⑤中村久美, 集合住宅の居住特性に対応した収納様式の課題—生活管理の視点からみた収納様式に関する研究その3, 日本家政学会第64回大会 (2012)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計◇件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

無し

6. 研究組織

(1)研究代表者 中村久美 (NAKAMURA KUMI)
京都ノートルダム女子大学
生活福祉文化学部・教授
研究者番号: 80240860

(2)研究分担者

無し ()

研究者番号:

(3)連携研究者

無し ()

研究者番号: